

海気通信

Kaiki News

発行

千葉市民ギャラリーいなげ
〒263-0034
千葉市稲毛区稲毛 1-8-35
TEL: 043-248-8723
FAX: 043-242-0729
http://www3.plala.or.jp/
gallery-inage/

創刊号



特集 旧神谷伝兵衛稲毛別荘

なぜ伝兵衛は稲毛に別荘を建てたのか？

普段生活している家とは別につくる別荘は、気候や景色のよい場所に好んで建てられます。神谷伝兵衛という人物は、なぜ稲毛に別荘を建てたのでしょうか？



神谷伝兵衛(1856~1922)

安 政3年(1856年)、愛知県に生まれた伝兵衛は、わずか8歳で酒造家になることを夢見て働き始めました。はじめは商売の見習いや行商などをしながらコツコツお金を貯め、17歳には酒造を学びに一人横浜へ渡りました。

横浜の洋酒製造会社で働き出した頃、伝兵衛は原因不明の腹痛で生死の境をさまよいますが、フランス人の雇い主にワインを勧められたところ、みるみる元気になったそうです。それをきっかけに、伝兵衛は洋酒、とりわけワインづくりに興味を持ったのです。当時、日本では渋みや酸味の強いワインはあまり馴染みがありませんでした。そこで、伝兵衛は日本人でも飲みやすいワインづくりに挑戦します。

神谷伝兵衛という人 ~日本にワイン文化を広めた第一人者~

伝兵衛ゆかりの地

神谷パー
明治45年に神谷伝兵衛が開業後、現在も続いている。国登録有形文化財。左)明治45年当時右)現在の様子



シャトーカミヤ
明治36年に完成した日本初のワイン醸造工場。国指定重要文化財。左)建設中の写真右)現在の様子



蜂印香露葡萄酒
今でも「ハチブドー酒」の名前で飲まれている。

蜂印香露葡萄酒
伝兵衛が初めてつくったお酒は、ハチミツや薬草の入った甘くて身体に優しい葡萄酒で、日本中の人に飲まれました。その後も国内でブドウ栽培やワイン醸造工場の建設に挑戦します。そんな折、伝兵衛は病に倒れてしまいます…

伝兵衛は、病気の療養と休息のため、ゆっくりとした時の過ごせる場所を求め、稲毛に別荘を建てたことが想像されます。別荘の窓の外には、白砂青松の美しい風景が広がっていたことでしょう。現在の稲毛は団地や住宅が広がる首都圏のベッドタウンとしての色合いが強いです。旧神谷伝兵衛稲毛別荘には大正・昭和初期の浜辺のリゾート・稲毛の記憶が色濃く残っています。

明治27年には市川・佐倉の総武鉄道に稲毛駅を開設、大正10年には船橋・千葉の京成電



稲毛海岸 当時は潮風にあたり海水に身をつけてゆっくりとリラックスするために足を運んだようだ。

インづくりに専念してきた伝兵衛は、大正7年、彼が62歳のときに、稲毛の現在の場所に別荘を構えます。当時の稲毛はどのような街だったのでしょうか？

旧神谷伝兵衛稲毛別荘の目前(国道14号線沿い)は白砂青松の美しい海岸でした。この海岸に千葉県初の海水浴場が設けられたのは明治21年。当初、海水浴は病気の治療や健康療法のひとつとされており、同年には浜辺を臨む松林の中に「稲毛海気療養所」という療養所も建てられました。

明治・大正・昭和初期の稲毛 ~東京にほど近い海辺の避暑地~



海気館 「稲毛海気療養所」を旅館・加納屋が買い取り「海気館」としてオープン。稲毛を代表する旅館だった。



潮干狩り 遠浅だった海岸は潮干狩りでにぎわった。

中でも「稲毛海気療養所」は海辺のしゃれた旅館「海気館」へと姿を変え、稲毛に華やかな彩りを添えていました。森鷗外や島崎藤村など多くの文人たちが訪れたことでも知られる今はなき「海気館」は、小説の中でその面影をたどることが出来ます。

鉄が開通します。すると、海水浴や潮干狩りをしに東京から気軽に行ってくる客が増え、海辺を臨む松林には多くの旅館や別荘が建てられました。当時の稲毛は関東を代表する風光明媚な避暑地だったのです。